

第6回青梅市梅の里再生計画推進委員会議事要旨

日 時 平成26年8月20日(水) 15:00~17:00

場 所 青梅市役所本庁舎 災害対策本部室

出席者 委員 13名

深沢委員、野崎委員、伊藤委員、小澤委員、福島委員、石川(清)委員、清水委員、
渡邊委員、石川(毅)委員、島崎委員、廣田委員、原島委員、越前委員

オブザーバー 1名

東京都観光部観光まちづくり担当 板倉課長

事務局 12名

青梅市、プレック研究所

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 平成26年度梅の里再生計画に関する会議等の開催状況について【資料1】

(2) 梅の里施設整備基本計画策定業務の進捗状況について【資料2】

(3) その他

4 協議事項

(1) 梅の公園等の当面の植栽方針について

ア. 梅の公園・中道梅園等

1. 梅の公園全体の植栽【資料3】

2. 中道梅園の植栽【資料4】

3. 菜の花の播種

イ. 農地【資料5-1,2】

(2) その他

5 その他

6 閉会

配布資料 資料1 平成26年度 梅の里再生計画に関する会議等の開催状況一覧
資料2 梅の里施設整備基本計画策定業務の進捗状況について
資料3 梅の公園の当面の植栽方針 [平成26年度植栽計画(案)]
資料4 中道梅園植栽イメージ
資料5-1 シロカラシ開花写真
資料5-2 菜の花播種予定地

議 事

1 開会

○配布資料の確認を行った。

2 あいさつ

副市長

委員長

3 報告事項

(1) 平成26年度梅の里再生計画に関する会議等の開催状況について

事務局

○資料1について報告した。(※省略)

(2) 梅の里施設整備基本計画策定業務の進捗状況について

事務局

○資料2について報告した。(※省略)

4 協議事項

(1) 梅の公園等の当面の植栽方針について

ア. 梅の公園・中道梅園等

1. 梅の公園全体の植栽

事務局

○資料3について説明した。(※省略)

2. 中道梅園の植栽

事務局

○資料4について説明した。(※省略)

委員

- ・中道梅園に関しては梅の公園と違って確かな園路がないので、植栽をするのならその場所がわかるようにしないと踏まれてしまう。踏まれないようにする工夫が必要だと思う。

委員

- ・中道梅園の菜の花の植栽はなぜ円形にしなければいけないのか。梅の公園のように中道梅園についても全体に菜の花を植えると見応えがあると思う。その中に歩ける園路をつくる形が良いのではないかと思う。

委員

- ・菜の花を円形に植栽すると管理がしにくいと思う。ネット状に通路をつくり、柵を設置してやったほうが見栄えはするのではないかと思う。はっきりした道があったほうが菜の花が痛まなかったりして良いのではと思う。

委員

- ・中道梅園の植栽では、開花時期が過ぎた後観光としては人寄せができないと考える。もうすこし息の長いものを植えていくことを考えてはどうか。3月の梅祭りはメインとして重要だけれども、お祭りが終わってからもお客さんが来ないと観光地は寂しい。5月6月までお客さんを引っ張り、秋は秋で引っ張ることができると思う。

事務局

- ・現在中道梅園の菜の花の植栽については、施設整備計画の中で検討している段階で、木原梅園等も含めて次の段階で再度ご提案できると考えている。

委員

- ・中道梅園については、通路をつくり他の場所の土を柔らかくして、いろいろな植栽ができるようにしておいた方が良くはないかと思う。来た人は自由に歩きまわるので、踏まれることが無いようにしておいた方が良くはないかと思う。
- ・梅の公園については、植物を見て回る順路について考えているのか。

事務局

- ・梅の公園内の植物を見て回る順路については現在検討している。

委員

- ・梅の公園の当面の植栽についてはすばらしい案ができたと思う。最終的には梅の公園に梅が戻り青梅市の要になる場所。梅の公園の再生にどのくらいの期間をみているのか。そこをしっかりと頭に入れて計画性をもってやって頂きたい。

事務局

- ・計画の中では、平成28年度には植栽を開始するという計画になっている。10年から15年の間には梅が見られるような公園にしなければ、観光客からも見放されてしまうような感じもしている。なるべく早期に見応えのある公園に生まれ変われるように、検討していきたいと思っている。

委員

- ・平成28年度に梅を植栽するという方針で進んでいるので、観光の梅を準備をしていかなければ2年後の植栽時期に間に合わないと思う。どこに何本植えるなど、どういう種類の梅を植えるなど考えなければならない。
- ・また、2～3年の梅は大きくなるまでかなりかかるので、所々太い木を植えて、その周辺には小さい苗木でもいいと思うが、早い段階から見栄えがするように計画をつくっていなければいけない。観光の梅の苗木の確保と、どこに何本植えるといった計画を進めて頂きたい。

事務局

- ・できるだけ早期に見栄えが良くなるように、成木を植えていきたいと思っている。場所によっては、比較的若い木を植えざるを得ない場所も出てくる。現在、梅を植える場所・樹種等の検討を行っている。

委員

- ・梅の公園の当面の植栽について実行に移るときに、植栽する日程や誰が植えるのか、お金がどれくらいかかるのかなどについて、どのように考えているのか。
- ・梅の公園と中道梅園以外にも周囲の畑に菜の花を植えると、全体の景観がより見栄えのあるものになると思う。土地をもっている方々との話し合いなどは行っているのか。またこれから行っていく予定はあるのか。

事務局

- ・J Rからの提供木、東京都からの提供木、また市の方で予算を確保しているので、それらを踏まえて樹木の確保を行っていく。植栽についてはJ Rと共催ということで、今後ボランティアの募集をしながら11月29日に植栽を行っていきたいと考えている。また一部は業者に委託しながら植栽を行っていきたいと考えている。

3. 菜の花の播種

イ. 農地

事務局

○資料 5-1, 2 について説明した。(※省略)

委員

- ・梅の公園に来て頂いている方は観梅通りを歩く人が多い。その周辺に菜の花の播種予定地が無いのは残念である。

事務局

- ・農家のみなさんにご協力を頂くのが前提になる。今回ある程度菜の花を広範囲に播いていくことを進めてきてもらっている中で、今年だけに限らず、菜の花になるかどうかは別としても、お願いをしていきたいと思っている。観梅通り周辺の農家のみなさんへのお願いも、今回の取り組みを通して引き続き行っていきたいと考えている。

委員

- ・荒れた畑にはおそらく手間をかける労力もないということが考えられる。フェアリーベッチ（カラスノエンドウの仲間）を使えば、冬の間は緑があり雑草を抑えることができる。労力のない農家の方などには、雑草を抑えるためにフェアリーベッチを使うことを勧めると良いと思う。梅の公園についても菜の花を植えられないような場所には、フェアリーベッチで草対策をやるのが良いと思う。

委員

- ・ただ種を播けばいいというものではなく、雑草の方が背が高くなるのでそれまでの間の管理がなかなか難しいと思う。そのへんの管理ができる方なら大丈夫だが、誰でもというわけにはなかなかいかず、途中の見た目があまり良くないと思う。そういうことも考えて播いて頂けたらと思う。

委員

- ・梅の公園はこれだけ大規模に菜の花が咲けば、かなり見栄えがあつていいのではと思う。あくま

でも来年の3月の観梅市民祭りに合わせて咲いている花としてやっているものなので、一安心している。観光協会としても青梅市には感謝したいと思っている。

委員

- ・非常にこの計画は良いと思うが、2～3月に菜の花が咲くのかどうか心配している。

事務局

- ・花卉・種苗会社に問い合わせをしたところ、早いものでは12月中に咲く菜の花もあり、青梅の気候に合わせて3月中に咲く種もあると聞いている。青梅市の中でも梅郷は特に寒い場所でもあるため、そのへんのところも加味しながら、種の選定を検討していきたいと考えている。現在、種苗会社と調整をしている段階である。

委員

- ・一面花畑だけでなく、迷路やクイズ、スタンプラリーなども考えてみると面白みが出てくるのではないかと思う。

委員

- ・周辺の農家に菜の花を撒いてもらえるのは良いとは思いますが、雑草が生えなかなか難しいと思う。だから早く梅を植えたいということに尽きる。時間が経てば経つだけ、農地は荒廃していき、手も無くなる。短期的には非常に良いアイデアだが、最終目標は梅を再生するということを第一に考えなくてはいけない。

委員長

- ・梅を植えるのは平成28年からとなっていて、現段階では畑の方の梅の苗の確保をしている。公園の方の梅の苗の確保も進めていかなければいけないと思っている。

委員

- ・梅の公園の梅は多品種なのでどこにどういう苗があるのか、どういう種類があるのかはやく準備していかないといけない。

委員

- ・4シーズンの観光も考えていかなければいけない。
- ・西中の生徒が農地にソバを植えたことが新聞に載った。このような現在行われているソバで集客を促していくということも考えられる。種は青梅市が提供するから農家の方に植えて育ててもらえないかというような提案も考えられる。農林課ではどのように考えているのか。

事務局

- ・ソバの関係については、梅に代わるものとしてやっていて、転作ということで進めさせて頂いている。新聞に載ったように西中の生徒や少年野球のこどもたちが、農家や地元と一っしょにやっ
- て頂いていることは把握している。今回は梅祭りの時期に何かできないかということで、キカラシでイメージをつくりやらせて頂いている。ソバの花の咲く時期は梅とは違う時期なので、観光

と連携して何ができるのか、緊急の課題として捉えている。

委員

- ・農家へ勧めていく植栽はキカラシだけでなく、ソバなど収益があるものも考えていく必要があると思う。梅の里の再生を機会にあらゆることに挑戦していかなければいけない。

委員長

- ・梅の植えられる状況になれば、菜の花の植えられる場所は無くなるので、梅の公園に菜の花のある時期は2, 3年なのかなと思う。年間を通じて梅の公園等が何か咲いているようなことも検討していかなければいけない。

委員

- ・今年、梅の公園は梅の木が伐採されて、どこのあずまやからもアジサイが見えてすばらしかった。いろんな方に見て頂きたいと思う。

委員長

- ・今回は2月3月の咲き物が多いが、それ以外の7月8月に咲く花などの案はあるのか。

事務局

- ・3月に観光客にきて頂くにはどうするかということで植栽計画を進めている。今後もまずはそれを中心に考えていきたいと思っている。そして、梅の木が植栽されたのに合わせて、さらに年間を通じて楽しめるような公園にできればと思っている。

委員

- ・都の広報やテレビ、青梅市の梅が伐採された後もがんばっているところをもっと広報に載せて頂き、いろんな方に関心を持って頂きたい。随時PRできたら良いと思う。

委員

- ・宣伝をどのようにしていくのかは重要なことだと思う。いくら計画立てても宣伝をしなければお客さんは来ない。あと駐車場についても考えなければならない。

委員長

- ・是非広報には梅の里再生計画に関する欄を毎回つくり、情報発信をして頂きたい。

委員

- ・梅の里再生基金は集まってきているのか。

事務局

- ・梅の里再生基金は今現在市民の方からの寄付が、現在12,055,000円、梅祭りや花火大会での募金活動で677,000円余、損失補償金42,400,000円余ということで現在、約55,200,000円基金が集まっている。

(2) その他

委員

- ・資料2の基本計画の全体構成（案）第Ⅲ編の内容にある観光コース等というのは、どういうものを想定しているのか。

事務局

- ・周辺観光コース等については、現在青梅市や観光協会で既存の観光ルートとして設定しているものがあり、実際の観光ルートとして適切かどうか検討・検証して、新たな観光ルートの設定やサインの設置などの必要性について検討していくということ。

委員

- ・赤ぼっこは見晴らしが良く、隠れた観光名所となっている。植えるところは少ないが菜の花を植えたりしながら、観光ルートの一部として考えていくのはどうか。

委員

- ・赤ぼっこは眺望が良い。何が見えているのか聞かれることが多いので、何が見えているのかわかるように、眺望案内板を設置して欲しい。

事務局

- ・赤ぼっこに関しても、地元の観光協会や青梅市の観光協会等と協議の上、活用していきたいと考えている。

5 その他

- ・特になし

6 閉会

副委員長